



人のうきき

《総人口》
97,693人(+28)
男性 49,719人(+34)
女性 47,974人(-6)
《世帯》51,447世帯(+41)

()内は、前月との比較です。

11.1 現在

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851

10/15 元プロ野球選手と一緒に
北海道日本ハムファイターズ野球教室

日本ハムファイターズ千歳市応援大使事業の一環として、ベースボールアカデミーコーチの牧谷 宇佐美 氏を講師に招き、野球教室が開催されました。市内の少年野球チームから59人が参加し、キャッチボールやバッティングなどの基礎を教わりました。一番の盛り上がりは、元プロ野球選手が参加者全員に投げてくれたバッティング練習。「ナイスバッティング」と声をかけられた子どもたちは笑顔でいっぱいでした。



10/16 支笏湖ブルーと紅葉のコントラスト
支笏湖紅葉まつり



支笏湖で紅葉が見ごろとなる《紅葉ウィーク》。この期間の最終日に《支笏湖紅葉まつり》が開催されました。湖畔園地のメインステージでは、銅像そっくりの《ミドリマン》によるパフォーマンスやアイヌ古式舞踊など各種の催しが行われ、会場を盛り上げました。山線鉄橋付近では、明治から昭和にかけて運行していた《山線》をイメージしたミニSLが走行。乗車した佐藤 成瑠美さん(小学3年生)は「本物の汽車に乗った気分。運転しているみたいで楽しかった」と話しました。

10/21 先人たちの偉業に敬意と感謝を込めて
空港開港 96 年献花式

大正15年、当時の千歳村民は飛行機を間近で見たいとの思いを抱き、鋸や鍬で手づくりの着陸場を造成しました。それから96年、千歳市と千歳航空協会は、この先人たちの偉業に敬意と感謝を込めて、献花식을執り行いました。献花式には山口市長ほか36名が参列し、あたたかい日差しの中鮮やかな白色の花を石碑に手向けました。石碑には「鋸振う 村人の夢 ここに舞う」と記され、千歳村民が夢を託した一本の着陸場が、やがて今日の新千歳空港へと発展していったことを物語っています。



空港公園にて

10/8 10/9 10/10 新千歳空港に集結
ちとせの魅力発見展



新千歳空港国内線ターミナルビル2階センタープラザで《ちとせの魅力発見展》を開催しました。特産品の消費拡大と航空需要の低下により利用客が減少している空港施設の利用促進を目的としたイベントで、PRブースには、観光情報のほか市の特産品約80点を展示し、多くの来場者が足を止めていました。また、空港内の店舗で購入したレシート3千円ごとに参加できる抽選会場では、千歳の特産品がもれなく当たる約6千本の抽選が行われ、景品とあわせて市の特産品を掲載したパンフレットなどを配布し、多くの来場者に千歳の魅力をPRしました。

10/15 消費者目線で学ぼう SDGs
ちとせ消費者まつり



くらしに役立つ知識を深め、市民の消費生活の安定と向上を図る《ちとせ消費者まつり》が北ガス文化ホールで開催されました。消費者まつりは「みんなで学ぼう未来のためのSDGs～エシカル消費に向けて～」をテーマに、出展企業・団体がパネル展や実演で食品ロス削減、省エネ、脱炭素などの取り組みを紹介。ほかにも環境に配慮した商品の販売や、環境問題をテーマにしたかるた大会などが行われ、多くの来場者にぎわいました。参加した加藤 里桜さん(小学6年生)は、環境問題への取り組みについて「できることを自分で考えることで、私たちが環境問題に取り組んでいけると感じた。節水、節電、節約、リサイクルなど自分にできることを生活の中で意識したい」と話しました。



MONTHLY PHOTO
マンスリーフォト
GRAPH くらぶ

まちのできごと・マンスリーでお知らせします。

10/13 縄文時代の道具で再現
周堤墓 つくっちゃいました



埋蔵文化財センターの敷地内に、直径10メートルほどの周堤墓が突如として出現しました。この周堤墓は千歳第二小学校6年生の手によって造られ、キウス周堤墓群への理解を深める体験学習として実施されました。参加した児童は約60人。一部復元した縄文時代の道具を使用し、平らな地面を約2時間かけて掘り、完成しました。参加者の近藤 勇羽さんは「キウスにあるような大きな周堤墓を作るのは、縄文人も大変だったと思う。木の棒や貝殻を使ってここまでできたのは、みんなががんばったおかげ。達成感があります」と話しました。

